

## 第一回「空港グランドハンドリング作業の生産性向上に資する技術検討会」議事概要

日時：2024年6月26日（水）10：00～11：30

場所：中央合同庁舎2号館会議室+Microsoft Teams 会議

議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

### 【グランドハンドリング作業の現状と課題】

- 一挙に問題を解決するのは難しく、一歩ずつ進めるのが現実的だと感じた。
- 既存のリソースをいかに効率的・効果的に活用するか、共用できるものは共用するというのが重要なキーワードである。そのうえで、業務として標準化のできそうな部分と個社に任せる部分の見極めが重要である。
- スペースが足りないというのはどの空港も共通している課題である。
- 手荷物処理のスループットを定量化・数値化できると全体像がわかりやすくなるのではないかと。生産性の向上によってスループットはどの程度改善するか、一人あたりのスループットはどの程度になるか、作業のボトルネックはどこなのか、というようなことが整理できればと良いと考える。
- 最終的に全体の最適を目指すのであれば、比較的短期の技術開発だけではなく、インフラ側の改変も考えるべきなのではないか。
- 海外の事例では、一部の作業を機械に置き換えている。この方法も選択肢として現実的である。現在やりやすいことからとなれば、搭載補助から着手するのも良いと考える。
- アーリーバゲッジをどう収納してどう排出するか、解決方法がなく狭隘の中で溢れかえっており、人が横持で運んでいるのが実態として起きている。
- 省力化と省人化という話が出ているが、それぞれ明確に目的を持った方が良い。両方を同時に満たすこともできると思うが、技術的に目指すべき優先順位をつけることでより導入しやすくなるのではないかと。
- 脱炭素となる技術導入が自然とできている形になれば良い。新技術導入時に継続的に使うことになると思うので、脱炭素も同時に実現できるものが意識されていると良いのではないかと。

**【今後の検討の進め方】**

- 新しい技術を入れるうえでほとんどのものが電動になっている。新しい技術の車や技術を導入するために空港ターミナルの電気の容量が厳しい。  
空港の電力容量が分かっているとスムーズな技術導入にもつながるため、調査の中にも組み込んでほしい。
  
- 手荷物の扱いもしかりだが、コネクション対応も絡んでくる。どう自動化するのかにあたって、流れてくる貨物の制御について工夫が必要。手荷物の輸送に絡む作業内容は一通り確認したい。

以上